

鴨居中学校防災拠点訓練の概要（メモ）

平成 23 年 9 月 16 日（金）

鴨居中学校防災拠点運営委員会代表 山口 章

I. はじめに

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災、平成 7 年 1 月 17 日の阪神淡路大震災を教訓として、当地区の「防災力の向上」を目指して、“より実践的な訓練に取り組む”のを目標・理念にして、計画段階では、企画実行委員会が中心になって、5 回の検討委員会を開催し、“多くの地域住民の参加を得て、地域の防災力向上にとって「自助・共助」の大切さ”に「気づいて頂く」ことに、大きな「目標・理念」に掲げ、開催しました。その概要を記す。

II. 鴨居中学校地域防災拠点の紹介・・・白山地区（緑区白山地区）の避難場所

1. 場所： 横浜線鴨居駅の西側に位置し、緑区白山 1 丁目～4 丁目、人口数約 10,000、世帯数約 4,000 の避難場所として鴨居中学校が指定されている。
2. 自治会加入率： 自治会加入世帯 3,224 世帯。自治会加入率約 80%と低い。
3. 拠点の構成：連合自治会：10 自治会（2 自治会：戸建中心、8 自治会：マンション）
団体：社協・体指・家庭防災員・消防団・区役所・中学校など。
4. 地下構造・地形： 横浜市地震マップからすると、この地域は比較的良い。
5. 建物・住居： 木造戸建と高層住宅の比率、約 1：1 の混在地域。
6. 取り組み：① 共通目標・テーマとして「家具転倒防止」「避難訓練」「ささえあいカード」などに取り組む。
② 個別目標・テーマとして、「戸建は住宅の耐震性」、「高層住宅はライフラインの被害対策」に取り組む。
③ 地域としては、[絆]を大切に、全員で、“白山「安全・安心なまちづくり」～新しいコミュニティーの醸成～”に取り組む、具体的には、ア) 防犯、イ) 防災、ウ) 福祉（高齢者・障害者が安心して住める）、エ) 子どもの健全育成、カ) 環境（ゴミ・美化・エネルギー）配慮の「まちづくり」に励む！

III. 訓練内容の紹介・・・訓練は、第 1 部と第 2 部からなる。

1. 日時・場所・・・第 1 部：9 月 10 日、第 2 部：9 月 11 日、場所は両日とも鴨居中学校

2. 訓練内容・・・第 1 部と第 2 部からなる。

2-1. 第 1 部・・・拠点エキスパートの養成訓練・・・役員・エキスパート

- ① 日時：9 月 10 日(土) 8:00～12:00
- ② 参加者：68 名（当初目標：約 40 名）
- ③ 実施内容・・・下記のア)～カ) 項目を順次実施、右サイド団体名は担当団体名

- ア) 備蓄庫内機材点検、清掃、虫干し・・・拠点
- イ) 三角巾、心肺蘇生法、AED 訓練・・・消防署
- ウ) デジタル無線機取り扱い及び交信訓練・・・拠点
- エ) エンジンカッター、油圧ジャッキ・・・消防団
- オ) 地下貯水槽訓練・・・市水道局
- カ) 備蓄庫内機材収納・・・拠点

2-2. 第 2 部・・・災害シミュレーション ゲーム訓練・・・全住民対象

① 日時：9 月 11 日（日）・・・下記の 3 項目を実施。

- ア) 安否確認：8:00～9:00（各自治会ごとに実施）、
- イ) 参加者数報告：9:20～9:25（各会長から報告）
- ウ) 災害シミュレーションゲーム訓練：9:25～12:00（屋内と屋外）

② 参加者：自治会：自治会 328 名+役員 38 名=368 名（目標 15%：480 名）

外部：行政 18 名、消防・消防団 16 名、中学校（校長・副校長、生徒 16 名）：計 50 名

③ 災害シミュレーション ゲーム訓練の内容と式次第・・・屋内と屋外

③-① 開会式・・・挨拶、来賓紹介、役員紹介

③-② PPT による情報の共有化・頭上訓練

- ア) 3 月 11 日東日本大震災発生時に白山地区で遭遇したこと：a) 震度 5 弱、
b) 電話・携帯不通、c) 横浜線不通、d) 停電、
e) 多くの帰宅困難者発生、f) 備蓄品の貸し出し、
g) 避難者の立ち寄り、h) 交通渋滞など。

イ) 防災拠点の立ち上げ：地震発生後、約 30 分後に立ち上げたが、幸い被害が少なく、本部への連絡・要請は無く、ただ、情報入手に「情報手段」が無く、なすすべも無く過ごした。

ウ) 防災拠点開設して遭遇したこと：連絡・情報網が機能せず、情報把握が出来なく、外部との連絡が出来なかった。拠点役員帰宅できず。

（こうした状況下で、民生員の方が、「防災ささえあいカード」に登録されている「高齢者の一人住まい」の方の安否確認がされたのが、明るいニュースであった。）

- エ) 遭遇した課題とその対策提案・・・a) 携帯デジタル無線の有効活用、
b) 発災後の 2 時間対応

- a) 携帯デジタル無線の活用：本件は、既に、昨年から購入・活用を検討していたが、今回のその有効性を知り、各自治会 2 台、高年齢者の安否確認民生委員 12 人に各 1 台の所有を進めること決定。
- b) 地震発生後 2 時間対応：阪神淡路大地震の教訓から「発生後の 2 時間対応」の重要性を知り、白山地区の「2 時間ルール案」を提案。今回提案し、今後、その徹底を図る。
- c) 白山 2 時間ルール：震度 5 以上の地震が発生した場合、生き延びていれば、「ドアにタオルをかける」、安否確認は、まず「隣近所」で、次いで「班毎に」、最後に「防災ささえあいカード」の「3 重」の確認を行う。

③-③ シミュレーション ゲーム訓練（想定訓練）・・・下記の想定で実施。

- ア) 想定・・・9月10日にマグネチュード 7.9 の地震で負傷者が発生し、その負傷者を拠点まで搬送する訓練、自治会と本部の連絡訓練はデジタル無線によった。
- イ) 安否確認で負傷者発見、搬送訓練・・・中学生 16 人の援助で実施。
- ウ) 各自治会と本部の連絡・情報交換・・・デジタル無線を使用する訓練。

③-④ その他、情報提供（PPT 使用）

- ア) 防災ささえあいカードの解説
- イ) 震災にかこつけた悪徳商法に注意
- ウ) まとめ： 発災時から避難するまでの手順、 安否確認の白山地区ルール

④ 屋外での体感訓練

④-① 油圧ジャッキ、エンジンカッター見学

④-② 消火器実践訓練・・・消火器 8 器

④-③ バケツリレーによる消火訓練

④-④ 白山消防団による放水デモンストレーション

⑤ 閉会式